

法人名：

株式会社 玉川サービス

設立年月日 平成3年10月22日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 田口 知明	資本金	10,000千円	県出資等額及び比率	5,000千円 (50.0%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立目的	秋田県のリゾート構想に基づき、玉川重点整備地区に民間宿泊施設及び自然公園施設が整備されることから、地区内の県有基盤施設の維持管理や給排水・給排湯施設の整備運営等を目的に、秋田県、仙北市、進出企業の出資により平成3年10月設立。						
事業概要	新玉川リゾート地区進出企業に対する玉川温泉の源泉供給管理及び給排水施設の運営管理、県営施設の指定管理等						
関連法令、県計画	「北緯40度シーズナルリゾート秋田」計画（指定区域）						
役員数 (R5.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
	1	4		1		1	5
	※役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧（内数）で表示。						

2 法人の行動計画（令和4～7年度）

県関与のあり方	継続	経営状況	安定	取組の方向性	・安定的経営の継続
目標	新玉川地区温泉事業者の安定的な経営のため、事業者への滞りない給排水事業等を実施する。				
取組	<p>○温泉事業者への滞りない給排水事業等を実施するため、施設設備について随時修繕計画の見直しを行い、計画に基づいた修繕を実施する。また、修繕費用の積立を継続し、経営の安定を維持していく。</p> <p>【R4年度】浄水場ソーダ灰注入器交換を行う。</p> <p>【R5～7年度】修繕計画書に基づき、施設の適正な維持管理を実施する。</p>				

3 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度
売上高	29,649	28,656
売上原価		
売上総利益	29,649	28,656
販売費及び一般管理費	29,320	28,426
人件費（売上原価含む）	5,670	5,511
営業利益（損失）	329	230
営業外収益	1	1
営業外費用		1
経常利益（損失）	330	230
特別利益		
特別損失		
法人税、住民税・事業税	141	119
当期純利益（損失）	189	111

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度
流動資産	29,684	27,585
固定資産		
資産計	29,684	27,585
流動負債	17,302	15,092
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	17,302	15,092
資本金	10,000	10,000
利益剰余金等	2,382	2,493
純資産計	12,382	12,493
負債・純資産計	29,684	27,585

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項 目	令和3年度	令和4年度	増減※
経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	101.1%	100.8%	△0.3
流動比率 (流動資産÷流動負債)	171.6%	182.8%	+11.2
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	41.7%	45.3%	+3.6
有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況（単位:千円）>

要支給額	引当額	引当率(%)
0	0	—

※要支給職員なし。

③県の財政的関与の状況（事業費補助・委託を除く）

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

株式会社 玉川サービス

I 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
<p>【令和4年度実績】</p> <p>○浄水場ソーダ灰注入器交換ほか、作成した計画書に基づき修繕を実施。</p> <p>○ビジターセンター入館者数：7,309人（前年度5,807名、前年度比125.9%）</p> <p>○ビジターセンター顧客満足度：88.5%</p>		<p>【令和4年度実績】</p> <p>○当期純利益は111千円の黒字であった。</p> <p>○経常利益は230千円の黒字であった。</p> <p>○営業収入は水道使用量が減少したこと、指定管理料及び業務委託料が減少したことから、前年に比べ993千円の減収となった。</p>	
<p>【自己評価】</p> <p>○計画外の高額な修繕が発生したが、目標設定した浄水場ソーダ灰注入器交換のほか、修繕計画に含まれている機械に優先順位をつけて調整し運営に支障なく実施できた。</p>		<p>【自己評価】</p> <p>○令和4年度の経常利益は黒字であり累積債務もない。</p>	
<p>○ビジターセンターの入館者数は、新型コロナウイルス感染症が収まりつつあった4月～7月は前年に比べ1,000人程度増加したが、8月以降は新型コロナ第7波の影響により前年度並みとなったため、法人の目標である8,000人に対して91.4%の達成となった。</p>		<p>評価</p> <p>A</p>	<p>○水道使用量の減少に伴う企業負担金の減少及び受託業務収入の減少により前年に比べ約1,000千円の収入減となったが、修繕等の経費を計画的に実施したことにより、黒字を達成することができた。</p> <p>評価</p> <p>A</p>

II 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況		2 経営状況	
<p>○経年劣化により突発的な設備修繕が発生したが柔軟に対応し、計画に基づいた修繕も実施しており、ビジターセンター来場者数においては法人の目標値を下回った（91.4%）が、概ね目標を達成している。</p>		<p>当期純利益は引き続き黒字となった。借入金、累積損失もなく、経営状況は安定している。会社の規模から、施設設備の修繕費の多寡が経営状況に影響を与えるため、引き続き計画的な修繕を行う必要がある。</p>	
<p>評価</p> <p>A</p>		<p>評価</p> <p>A</p>	

III 委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
A	<p>○ビジターセンターの入館者数は前年度比で回復しているほか、借入金や累積損失もなく、経常収支比率も100%以上であり、安定した経営状況と判断される。</p>

【委員からの提言】

<p>○引き続き、安定的経営の継続のほか、突発的な修繕発生に備えて、内部留保に努めていただきたい。</p>

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
<p>○修繕計画の見直し等により経費の削減を図り、安定した経営が継続できるよう努めていく。</p> <p>○物価高騰やエネルギーコスト等の上昇が懸念されることから、水道単価の値上げ改定等を検討し、収入の確保に努める。</p>	<p>○安定した経営状況を維持し、計画的な修繕等を含めた施設管理に努めさせるほか、事業者への滞りない給排水事業等を継続する。</p>